

地域医療連携の深化に向けて

日本病院薬剤師会理事
静岡県病院薬剤師会会長
社会医療法人駿甲会法人本部医療技術部部长
コミュニティーホスピタル甲賀病院医療技術部部长
渡邊 学 Manabu WATANABE



2024年3月より静岡県病院薬剤師会会長を、また2024年6月の通常総会終結時より日本病院薬剤師会理事、地域医療委員会委員長等を拝命致しました、渡邊 学と申します。これまで静岡県病院薬剤師会では2006年より学術部を主に担当して参りました。日本病院薬剤師会では2016年より4年間中小病院委員会委員を、また2018年より地域医療委員会委員を担当して参りました。今年度からは前・地域医療委員会委員長 荒木隆一氏の後任として地域医療委員会委員長を拝命しております。微力ではありますが、職責に真摯に向き合い、会員の皆様のご期待に応えられるよう活動して参ります。会員の皆様には、厚いご支援ご鞭撻の程、どうぞよろしくお願い申し上げます。

地域医療構想や地域包括ケアシステムは、2025年を見据えた地域の病床の機能分化・連携体制や住まい・医療・介護・予防・生活支援の一体的な提供体制の整備を目標として進められてきており、今年、その目標年を迎えました。地域での医療連携と一口に言っても、地域ごと、施設ごとに人的資源や物的資源など様々な違いがあり、連携の形態や運用のされ方、注力されている事柄などは異なることと思います。しかしながら、「患者の薬物療法に関する様々な情報を、ケア移行時に途絶えさせない」という、薬剤師にとって基本的な課題は、どの地域、どの施設であっても共通です。すなわち、薬剤師として地域の資源を把握し、多くの人とかかわりながら、患者の未来を見据えた連携を実践していくことがあるべき姿と言えます。地域医療構想や地域包括ケアシステムの新たな目標年である2040年へ向けて、医療DXの進展なども踏まえながら、多職種連携などさらに医療連携を深化させていくことが私達には求められています。

地域医療委員会では、これまでに地域医療連携を積極的に実施されている施設や地域を紹介する地域医療連携事例集を3報、医療機関の薬剤師が薬局薬剤師やほかの医療従事者との情報共有を促進することを目的とした地域医療連携の手引きを2報発行して参りました。今後も会員の皆様に有益な情報や成果をお届けできるよう、委員の皆と知恵を絞って活動して参ります。

また、静岡県病院薬剤師会会長として、病院薬剤師偏在指標0.66と非常に深刻な静岡県の病院薬剤師不足を改善すべく、様々な活動を行っております。静岡県や静岡県病院協会等の支援をいただきながら、「薬剤師を病院に集めること」だけでなく、「病院薬剤師が離職しない職場をつくること」を念頭に置いたマネジメント研修会の開催などにも取り組んでいます。今は薬剤師不足で苦しい状況ではありますが、県民の皆様により一層充実した薬物療法が提供できるよう、薬剤師確保・偏在解消対策や資質向上活動に取り組んで参ります。会員の皆様からのご支援、どうぞよろしくお願い致します。